
学校外教育活動に関する調査 2017

－ 幼児から高校生のいる家庭を対象に－

【本調査の特徴】

- 2009年と2013年に実施した調査との比較により、8年間の経年での変化がわかる。
- 全国の幼児～高校生の子どもの持つ母親、約16,000名が回答した。
- スポーツ、芸術、学習にわたる幅広い学校外教育活動および部活動の状況をとらえた。
- 各活動の普及状況、活動にかかる費用などの詳細がわかる。
- 3歳～18歳までの子どもの発達段階による活動の違いが明らかになる。
- 保護者（母親）の教育観と教育選択の実態がわかる。

目次

調査概要	2
基本属性	3

2017年 Data

① 子どもの学校外教育活動にかかる費用（学年別）	4
② 子どもの学校外教育活動にかかる費用（属性別）	5
③ スポーツ活動・芸術活動の活動率	6
④ 教室学習活動・家庭学習活動の活動率	7
⑤ スポーツ活動の内容と活動の場所	8
⑥ 芸術活動の内容と活動の場所	9
⑦ 学習活動の内容	10

8年間の変化

⑧ 各活動の活動率	11
⑨ 年収と学校外教育活動の費用	12
⑩ スポーツ活動・芸術活動についての考え	13
⑪ 負担感	14
⑫ 教育観	15

調査概要

- ◆調査テーマ 保護者(母親)の教育に関する意識、子どもの学校外教育活動の実態
- ◆調査方法 インターネット調査
- ◆調査対象 3～18歳(高校3年生)の子どもを持つ母親16,170名
 - ・約118万人のモニター母集団のうち、子どもを持つ既婚者(20～59歳)約30万人に対して予備調査を実施。このうち、1998年度～2013年度生まれの子どもを持つ母親にアンケートの協力を依頼した。
 - ・各年度生まれの男子、女子を持つ母親、それぞれの区分ごとに515名のサンプルが集まった時点で調査を終了した。すなわち、調査は16,480名(=515名×16学年×性別(男子・女子))を目標回収数として実施した。
 - ・第3回調査では、一部、目標回収数に到達しなかった区分があったため、経年比較でのデータの精度を高める目的で実回収数が目標回収数の構成比と等しくなるよう、「目標回収数/実回収数」をウェイトとして設定して、分析を行った。
 - ・回答者に子どもが複数名いる場合には、第一子についての回答を求めた。
 - ・第1回調査は3～17歳(高校2年生)を対象としていたため、本レポートの「8年間の変化」では、18歳(高校3年生)を除外して、15,438名を対象に分析を行った。
- ◆調査時期 第1回調査2009年3月下旬
第2回調査2013年3月下旬
第3回調査2017年3月下旬

◆調査の全体像

学校外教育活動

◆スポーツ活動

定期的に行うスポーツ活動の種類/活動の頻度
/所属団体の種類/月あたりの費用/スポーツ
活動への期待/親子で行うスポーツ活動の頻度

◆芸術活動(音楽活動、美術活動、その他)

定期的に行う芸術活動の種類/活動の頻度/所
属団体の種類/月あたりの費用/芸術活動への
期待/親子で行う芸術活動の頻度

◆学習活動

●教室学習活動

定期的に通う塾や教室の種類/活動の頻度/月あたりの費用

●家庭学習活動

家庭での学習方法や使用教材の種類/活動の頻度/月あたりの費用

◆その他の活動

海外留学・海外体験・自然体験の有無・希望/外遊び・宿題・学習・テレビの時間



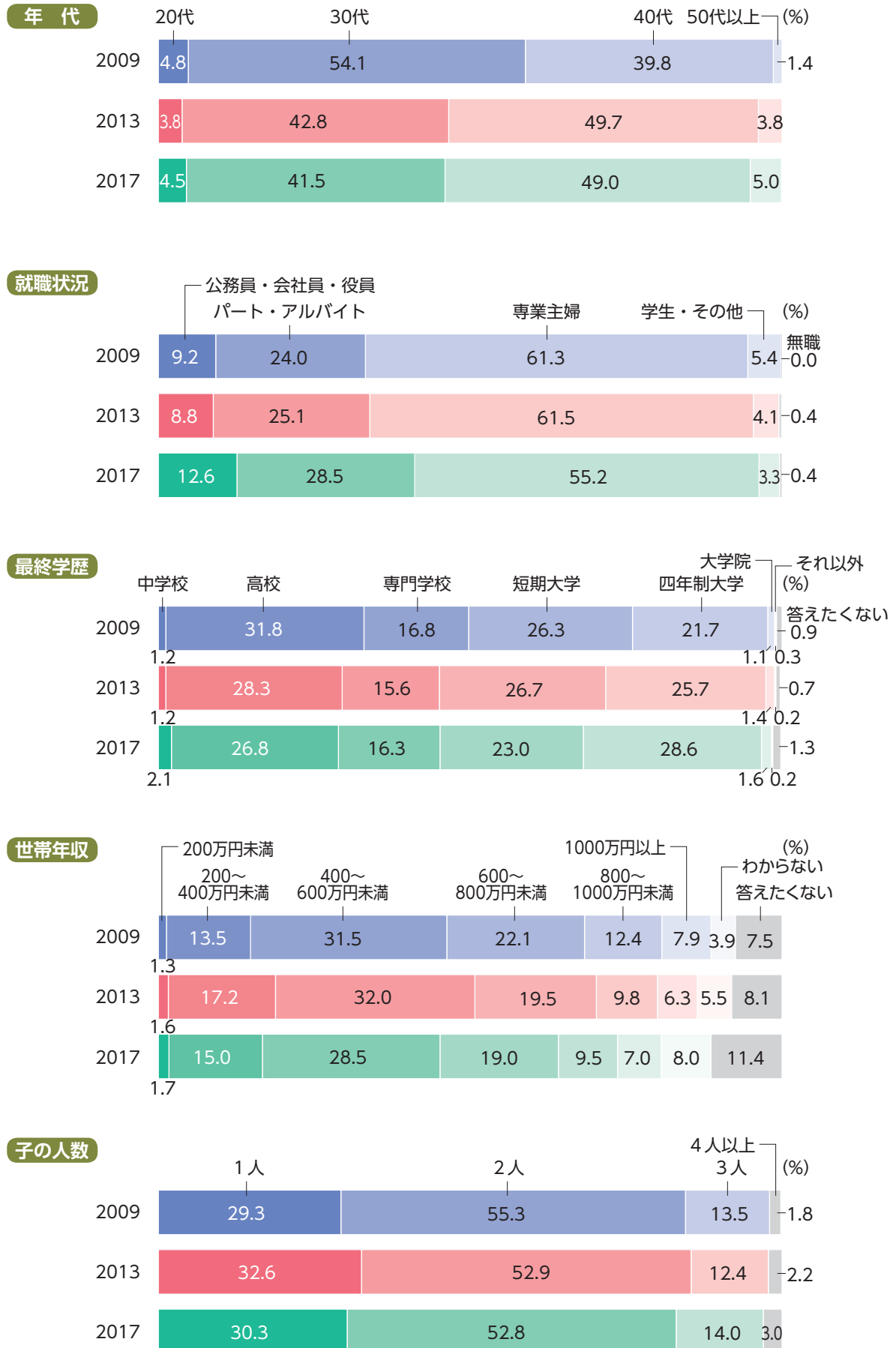
母親の意識・行動

教育にかかる費用(授業料含む)/教育観・教育に対する意見/情報源/ICT機器の利用頻度/希望する進学段階/中学受験の予定(小学生のみ)/母親自身のスポーツ・芸術活動の志向/母親自身の活動経験

※本調査の「学校外教育活動」には、学校で行われる部活動を含めている。

基本属性

◆本調査の対象となった母親の基本属性は、以下の通りである。



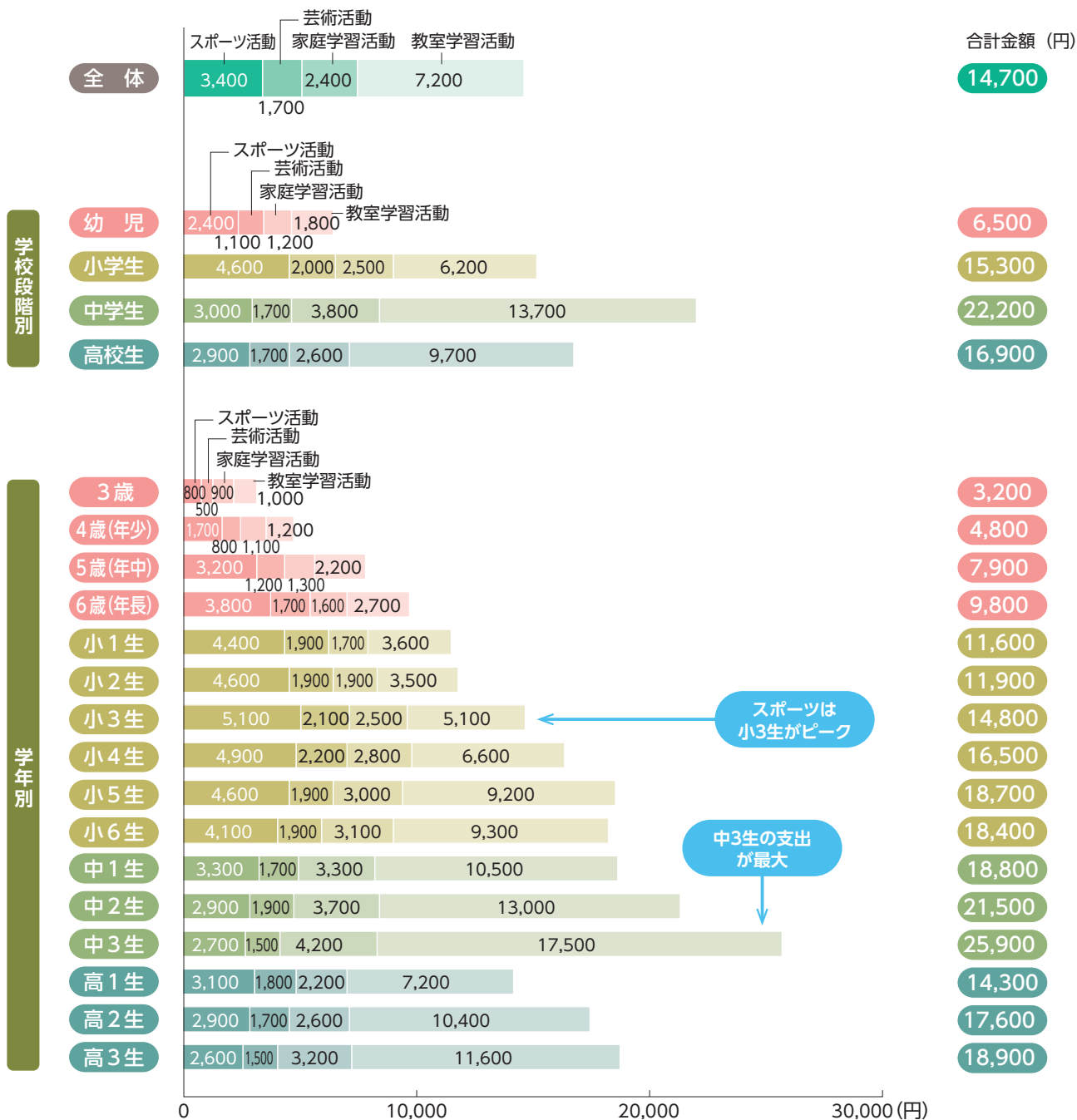
注 2009年データは3～17歳(高2生)の子どもを持つ母親(全サンプル)、2013年および2017年データは3～18歳(高3生)の子どもを持つ母親(全サンプル)を母数にしている。

- ◆スポーツ、芸術、家庭学習、教室学習にかかる費用の合計は、月平均14,700円である。
- ◆教室学習、スポーツ、家庭学習、芸術の順に支出の平均金額が大きい。
- ◆学校段階別では中学生の支出が大きく、中3生がピークとなる。

Q

それぞれの活動に対して、月にどれくらいの費用を支出していますか。

図1-1 1か月あたりの学校外教育活動の費用(学校段階別・学年別)



注1 スポーツ活動、芸術活動、家庭学習活動、教室学習活動の費用は、種類ごとの活動費をそれぞれの活動分野別に合計した。活動を行っていない場合は、0円として平均値を計算している。

注2 各活動の費用は十の位を四捨五入して、百の位にして示した。合計金額は、それらの値を足し合わせて算出した。

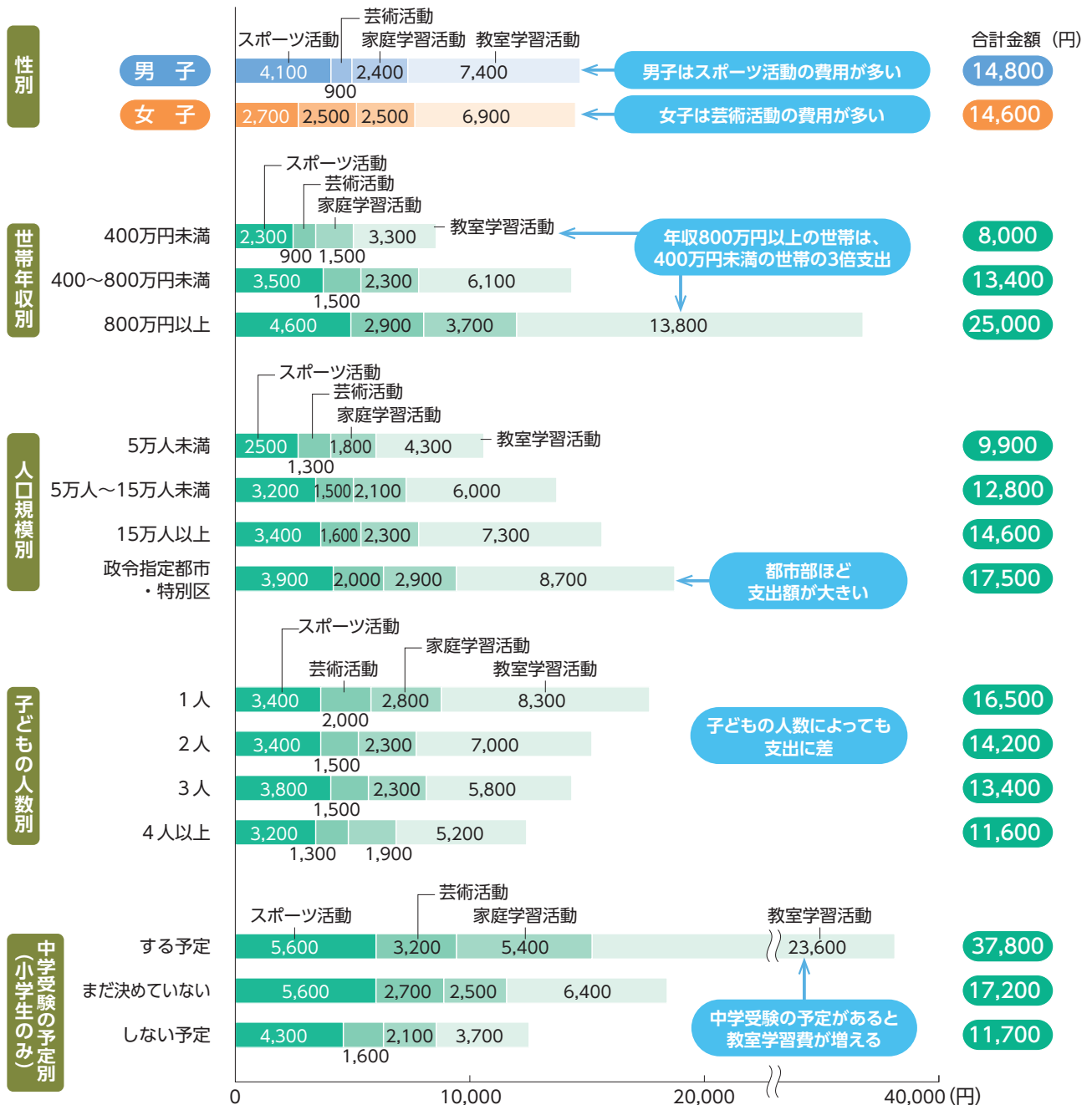
注3 2013年調査で家庭学習活動について「知育玩具」「絵本」「幼児向け雑誌」「学習雑誌」「知育・教育のアプリ」を新設したが、2009年調査に揃え、新設項目は除外して集計した。

- ◆男女で合計金額はほぼ同じ。男子はスポーツ活動、女子は芸術活動が多い。
- ◆世帯年収によって教育費に差がみられる。
- ◆居住する自治体の規模でも違いがみられ、都市部ほど支出が多い。

Q

それぞれの活動に対して、月にどれくらいの費用を支出していますか。

図2-1 1か月あたりの学校外教育活動の費用(属性別)



注1~3 P.4と同様。

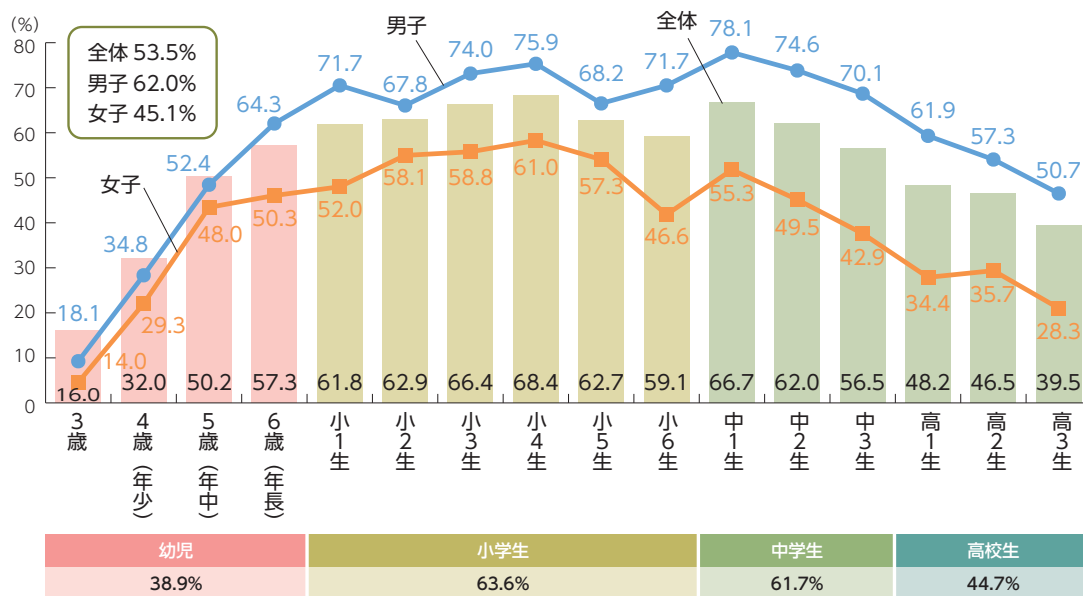
注4 世帯年収は、「ご家庭の世帯年収(税込み)はだいたいどれくらいですか」の回答による。「わからない」「答えたくない」と回答した者は、分析から除外した。

注5 自治体規模は、「お住まいの市区町村名」に対する回答に基づき分類した。無回答や不明だった者は、分析から除外した。

- ◆スポーツ活動は、小1生から中2生まで6割台で推移。中1生以降、活動率は低下する。
- ◆芸術活動は、6歳から高1生まで3割前後で学年差が小さい。
- ◆スポーツ活動は男子、芸術活動は女子の活動率が高い。

Q この1年間で、お子様が定期的に行っていた運動やスポーツはありますか。

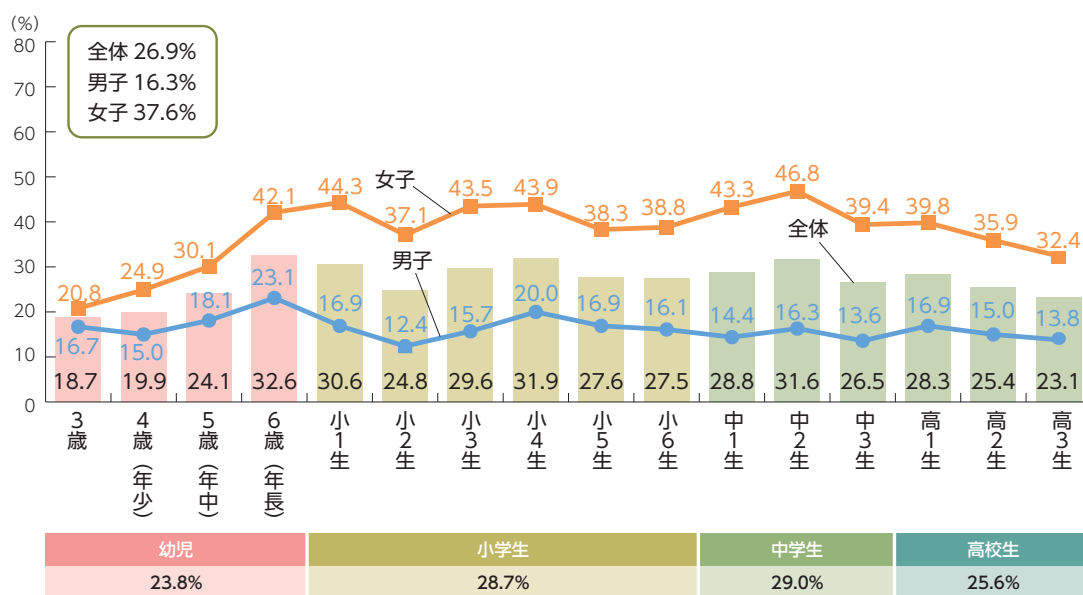
図3-1 スポーツ活動の活動率



注 スポーツ活動の選択肢のうち、いずれかを選択した比率(%)。

Q この1年間で、お子様が定期的に行っていた音楽活動や芸術活動はありますか。

図3-2 芸術活動の活動率

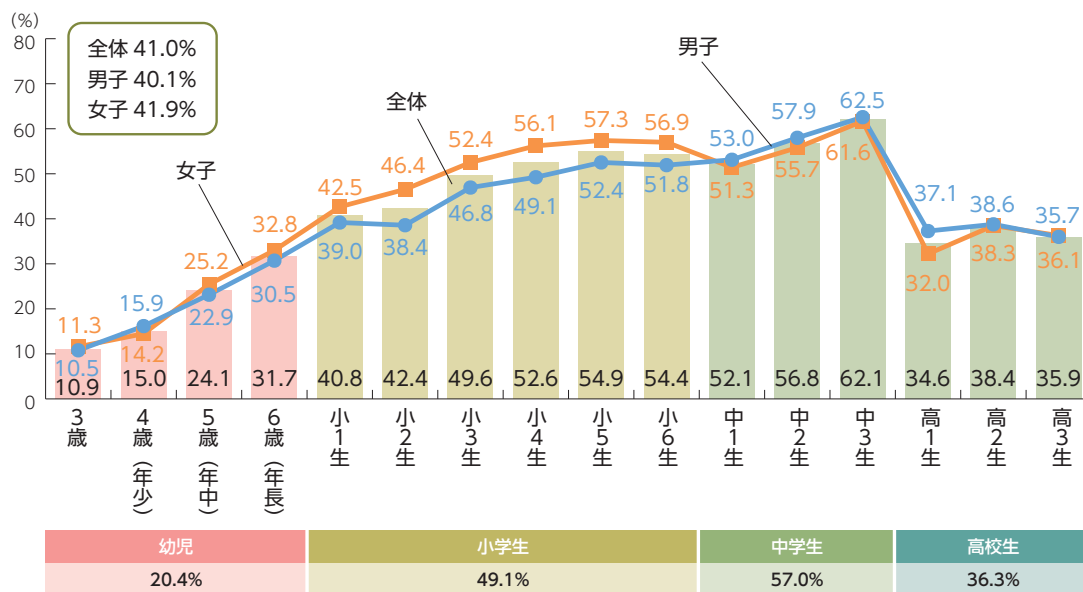


注 芸術活動の選択肢のうち、いずれかを選択した比率(%)。

- ◆教室学習活動は、小4生で5割を超え、中3生がピーク。
- ◆家庭学習活動は、小1生から中3生まで6割前後で推移。
- ◆教室学習活動も家庭学習活動も、男女差は小さい。

Q この1年間で、お子様が定期的に通っている塾・教室はありますか。

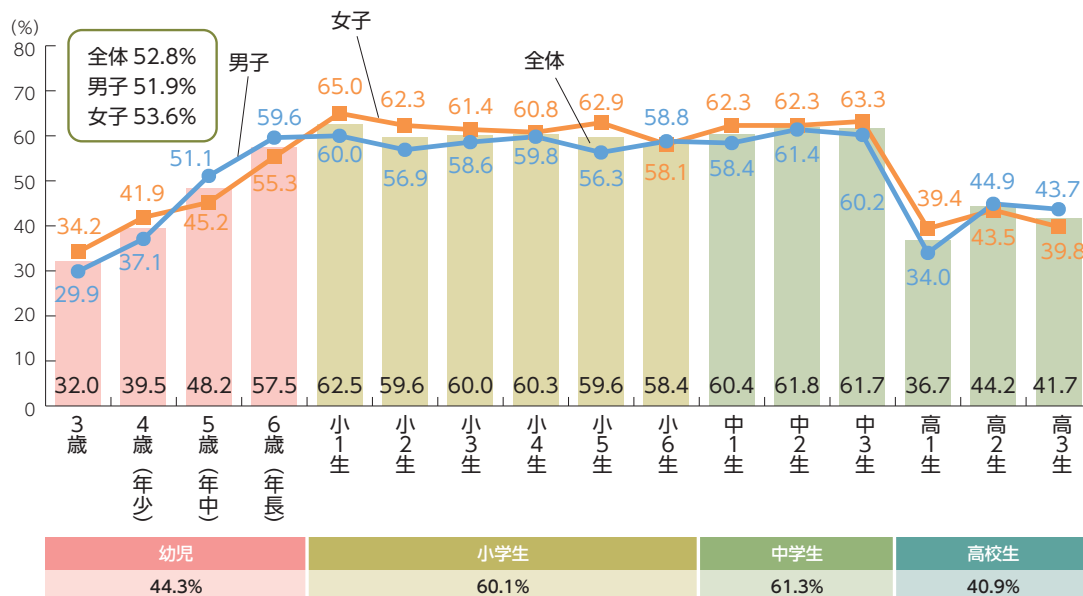
図4-1 教室学習活動の活動率



注 教室学習活動の選択肢のうち、いずれかを選択した比率(%)。

Q この1年間で、お子様が家庭でしている学習方法や使っている教材はありますか。

図4-2 家庭学習活動の活動率



注1 家庭学習活動の選択肢のうち、いずれかを選択した比率(%)。

注2 2013年調査で家庭学習活動について「知育玩具」「絵本」「幼児向け雑誌」「学習雑誌」「知育・教育のアプリ」を新設したが、2009年調査に揃え、新設項目は除外して集計した。

- ◆スポーツ活動の人気ナンバー1は「スイミング」。幼児、小学生で実施率が高い。
- ◆中学生と高校生のナンバー1は「テニス」。ただし、人気は分散し、10%に満たない種目が多い。
- ◆幼児と小学生は「民間経営」の場所で活動することが多く、中学生と高校生は「部活動」が多い。

Q この1年間で、お子様が定期的に行っていた運動やスポーツはありますか。

図5-1 スポーツ活動(全体、性別、学校段階別)

(%)

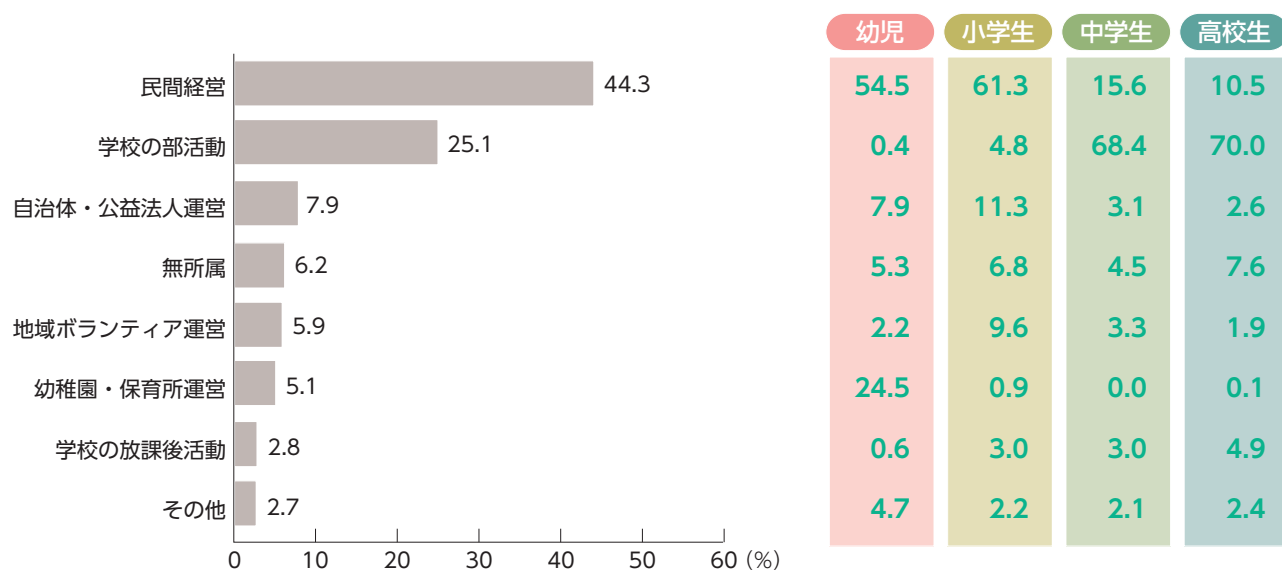
	全体	性別		学校段階別			
		男子	女子	幼児	小学生	中学生	高校生
1 スイミング	20.0	① 22.0	① 18.1	① 23.0	① 33.6	5.9	3.1
2 サッカー/フットサル	6.5	② 11.7	1.2	③ 4.5	② 8.7	③ 6.3	② 4.8
3 体操教室・運動遊び	6.4	③ 6.8	③ 5.9	② 15.5	③ 6.3	0.4	0.2
4 硬式テニス/ソフトテニス	5.1	5.9	4.3	0.4	4.5	① 11.2	① 6.2
5 ダンス	3.9	1.2	② 6.7	3.3	5.4	2.8	3.1
6 硬式野球/軟式野球/ソフトボール	3.2	5.7	0.7	0.3	4.3	5.4	2.6
7 陸上競技/マラソン	3.1	4.2	2.0	0.5	3.0	6.0	4.0
8 バスケットボール	3.0	3.6	2.5	0.1	3.2	5.7	③ 4.1
9 卓球	2.6	3.4	1.9	0.1	1.5	② 7.5	3.4
10 空手	2.5	3.8	1.2	1.0	4.4	1.8	1.3

注1 複数回答。表では全体の上位10位までを示した。

注2 白抜き数字は順位を示す。表中で同率のものは、小数第二位以下により順位をつけている。

Q お子様は、どのような団体(教室)に所属して、運動・スポーツを行っていますか。

図5-2 スポーツ活動の場所(全体、学校段階別)



注 スポーツ活動をしている人の所属団体を全て足し合わせて算出した。同じ人が複数の活動をしている場合は、それぞれ1としてカウントしている。

- ◆芸術活動の人気ナンバー1は「楽器の練習・レッスン」。16.3%が活動している。
- ◆美術にかかわる活動は全体に実施率が低く、もっとも多い「絵画／造形」でも3.1%にとどまる。
- ◆ほとんどの項目で女子のほうが実施率が高い。「楽器の練習・レッスン」は2.5倍の差がある。

Q この1年間で、お子様が定期的に行っていた音楽活動や芸術活動はありますか。

図6-1 芸術活動(全体、性別、学校段階別)

(%)

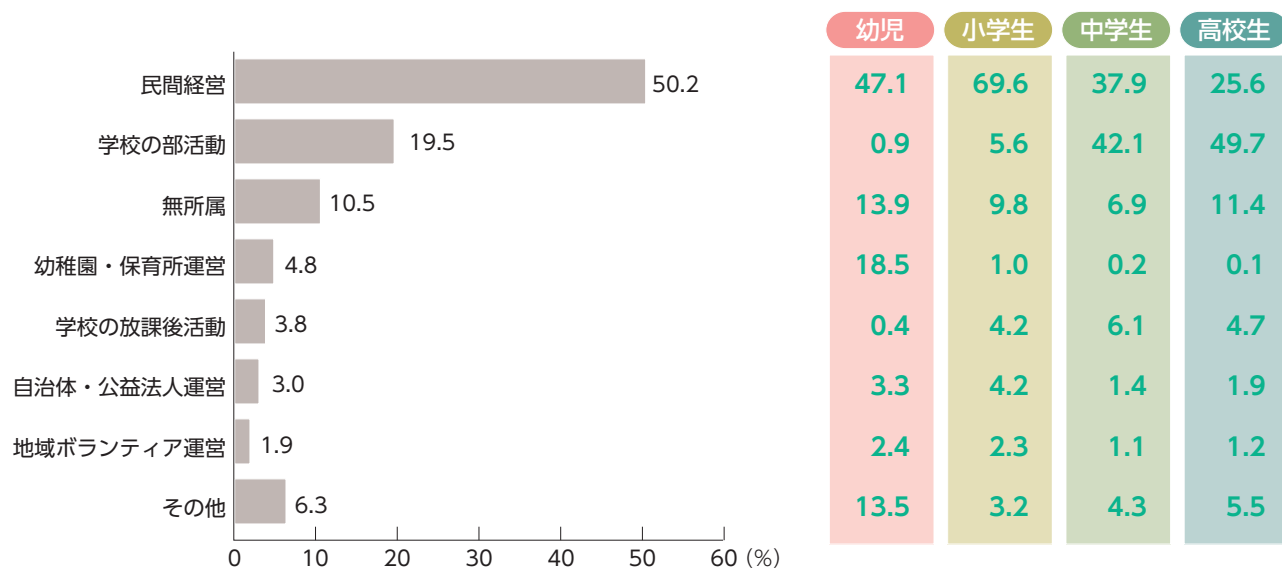
	全体	性別		学校段階別			
		男子	女子	幼児	小学生	中学生	高校生
1 楽器の練習・レッスン	16.3	① 9.1	① 23.5	① 9.6	① 20.7	① 18.8	① 14.1
2 絵画／造形	3.1	③ 2.2	② 4.1	2.5	② 2.8	② 4.3	② 3.4
3 音遊び／リズム遊び(音楽教室)	3.0	② 2.3	③ 3.7	② 8.2	2.1	0.5	0.4
4 合唱／コーラス	2.0	1.3	2.7	0.9	③ 2.1	③ 3.2	③ 2.2
5 リトミック	1.7	1.7	1.7	③ 5.9	0.5	0.3	0.1
6 バレエ	1.6	0.3	2.9	1.5	2.0	1.2	1.1
7 茶道	0.9	0.3	1.5	0.6	0.6	1.0	2.0
8 演劇／ミュージカル	0.6	0.3	0.9	0.2	0.4	0.6	1.5
9 写真	0.6	0.5	0.6	0.3	0.5	0.7	1.0
10 声楽／ボイストレーニング	0.5	0.2	0.7	0.5	0.2	0.6	0.9

注1 複数回答。表では全体の上位10位までを示した。

注2 白抜き数字は順位を示す。表中で同率のものは、小数第二位以下により順位をつけている。

Q お子様は、どのような団体(教室)に所属して、音楽活動や芸術活動を行っていますか。

図6-2 芸術活動の場所(全体、学校段階別)



注 芸術活動をしている人の所属団体を全て足し合わせて算出した。同じ人が複数の活動をしている場合は、それぞれ1としてカウントしている。

- ◆教室学習活動では、小学生は「英会話・英語教室」「習字／硬筆」「プリント教材教室」などが上位。
- ◆中学生・高校生になると、「進学塾」「補習塾」などの比率が高まる。
- ◆家庭学習活動では、全体に「市販の参考書・問題集」「通信教育」の比率が高い。



この1年間で、お子様が定期的に通っている塾・教室はありますか。

図7-1 教室学習活動(全体、性別、学校段階別)

(%)

	全体	性別		学校段階別			
		男子	女子	幼児	小学生	中学生	高校生
1 受験勉強をするための塾(進学塾)	12.6	① 13.2	① 12.0	0.2	7.3	① 31.7	① 20.8
2 英会話・英語教室	10.8	② 10.1	② 11.6	① 10.5	① 15.0	③ 9.2	4.6
3 習字／硬筆	6.3	4.3	③ 8.2	1.7	② 11.6	5.1	2.8
4 学校の補習をするための塾(補習塾)	5.5	③ 6.1	4.9	0.2	5.3	② 13.4	③ 5.1
5 計算や漢字などのプリント教材教室	4.6	4.7	4.5	② 2.9	③ 8.3	3.0	1.1
6 そろばん	3.8	3.3	4.2	0.9	7.8	2.1	1.1
7 学校が行う補習教室(放課後や土日など)	2.9	3.0	2.8	0.9	2.8	2.5	② 6.2
8 算数・数学教室	1.6	1.7	1.6	0.6	2.4	2.0	1.1
9 能力開発のための幼児教室	0.8	0.9	0.8	③ 2.2	0.5	0.2	0.2
10 国語・作文教室	0.8	0.9	0.8	0.7	1.2	0.6	0.2

注1 複数回答。表では全体の上位10位までを示した。

注2 白抜き数字は順位を示す。表中で同率のものは、小数第二位以下により順位をつけている。



この1年間で、お子様が家庭でしている学習方法や使っている教材はありますか。

図7-2 家庭学習活動(全体、性別、学校段階別)

(%)

	全体	性別		学校段階別			
		男子	女子	幼児	小学生	中学生	高校生
1 市販の参考書・問題集	23.7	① 24.2	① 23.3	17.9	② 26.4	② 25.3	① 24.6
2 通信教育(定期的に郵送やタブレットやパソコンで届く教材)	22.3	② 21.4	② 23.2	25.4	① 29.1	③ 18.8	③ 8.2
3 絵本	17.0	③ 15.9	③ 18.1	① 52.9	③ 9.7	0.4	0.4
4 塾の参考書・問題集	11.5	11.7	11.2	1.3	8.3	① 27.1	② 15.9
5 知育玩具	11.1	11.0	11.2	② 37.1	4.5	0.4	0.4
6 幼児向け雑誌	7.5	6.5	8.4	③ 26.6	2.0	0.2	0.0
7 パソコンやタブレットの教材	4.9	4.8	5.1	2.8	6.6	5.8	3.5
8 スマートフォンの学習アプリ	4.6	4.7	4.5	5.4	3.6	3.5	6.8
9 学習雑誌	3.0	2.7	3.2	6.4	3.1	0.7	0.4
10 一括購入のセット教材	1.6	1.5	1.6	2.9	1.1	1.4	0.8

注1 複数回答。表では、全体の上位10位までを示した。

注2 白抜き数字は順位を示す。表中で同率のものは、小数第二位以下により順位をつけている。

- ◆スポーツ活動は、8年間でわずかに活動率が低下した。中学生の低下が大きい。
- ◆芸術活動も同様に、8年間で活動率が低下。いずれの学校段階でも5ポイント程度下がった。
- ◆教室学習活動は、大きく変化していない。家庭学習活動は、8年間で11ポイント低下した。



この1年間で、お子様が定期的に行っていた活動はありますか。

図8-1 各活動の活動率(学校段階別)



注1 各活動の選択肢のうち、いずれかを選択した比率(%)。

注2 2013年および2017年の数値は、経年比較のため2009年調査に揃え、高3生を除外した3歳～高2生を対象に算出した。

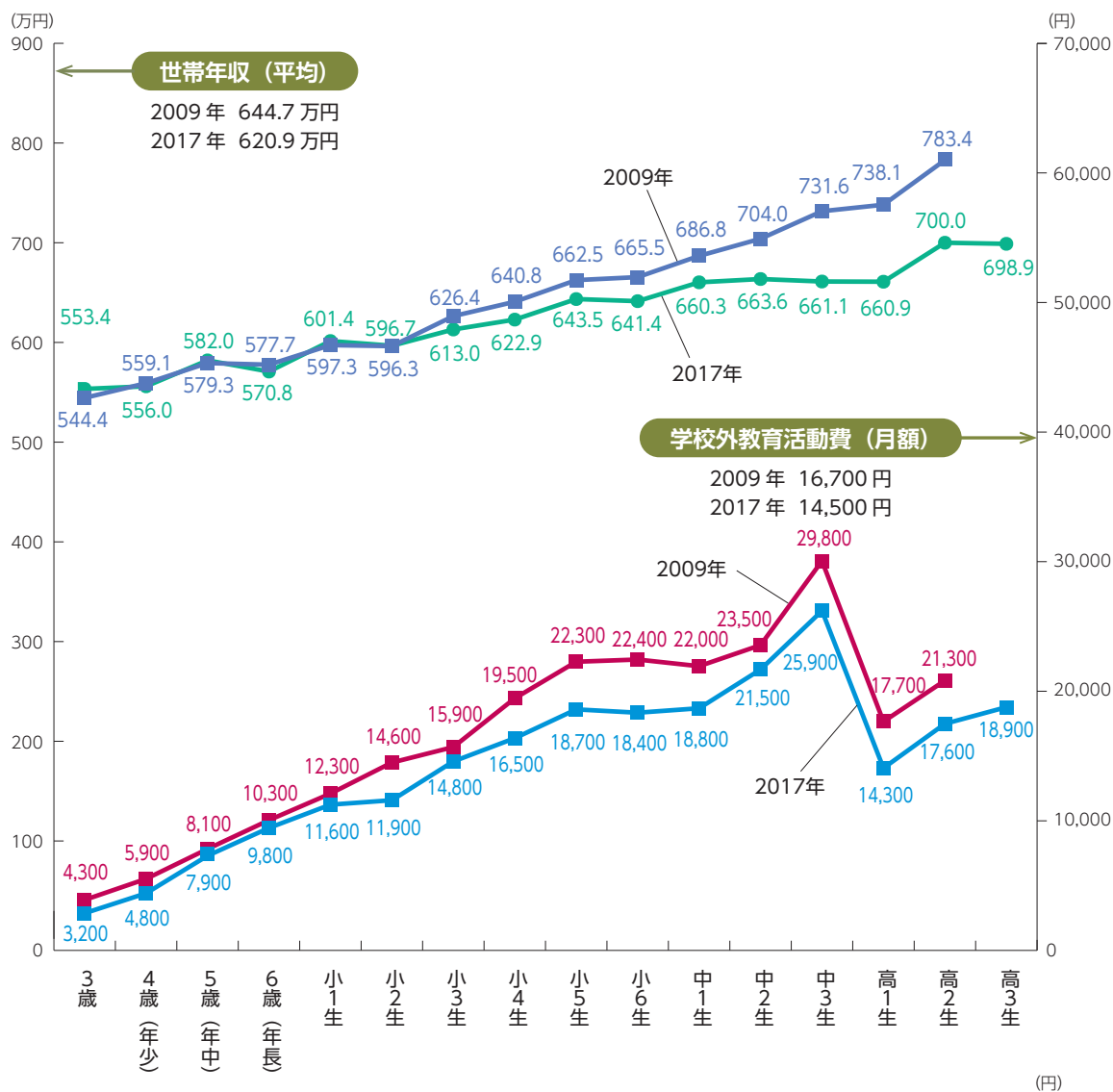
注3 2013年調査では家庭学習活動について「知育玩具」「絵本」「幼児向け雑誌」「学習雑誌」「知育・教育のアプリ」を新設したが、経年比較のため2009年調査に揃え、新設項目は除外して集計した。

- ◆ 2009年と比べて2017年は、世帯年収の平均額が24.5万円減少した。
- ◆ 2009年と比べて2017年は、学校外教育活動費の平均が月に2000円減少した。
- ◆ 世帯年収も学校外教育活動費も、小4生よりも上の学年で減少幅が大きい。

Q

(それぞれの活動に対して)月にどれくらいの費用を支出していますか。

図9-1 世帯年収と学校外教育活動の費用(月額)(全体、学年別、学校段階別)



	全体	幼児	小学生	中学生	高校生
2009年	16,700	7,200	17,900	25,100	19,400
2017年	14,500	6,500	15,300	22,200	16,000
差	-2,200	-700	-2,600	-2,900	-3,400

注1 世帯年収(平均)は、「200～400万円未満」を300万円、「400～600万円」を500万円のように置き換え、「わからない」「答えたくない」と回答した者を除外して平均値を算出した。

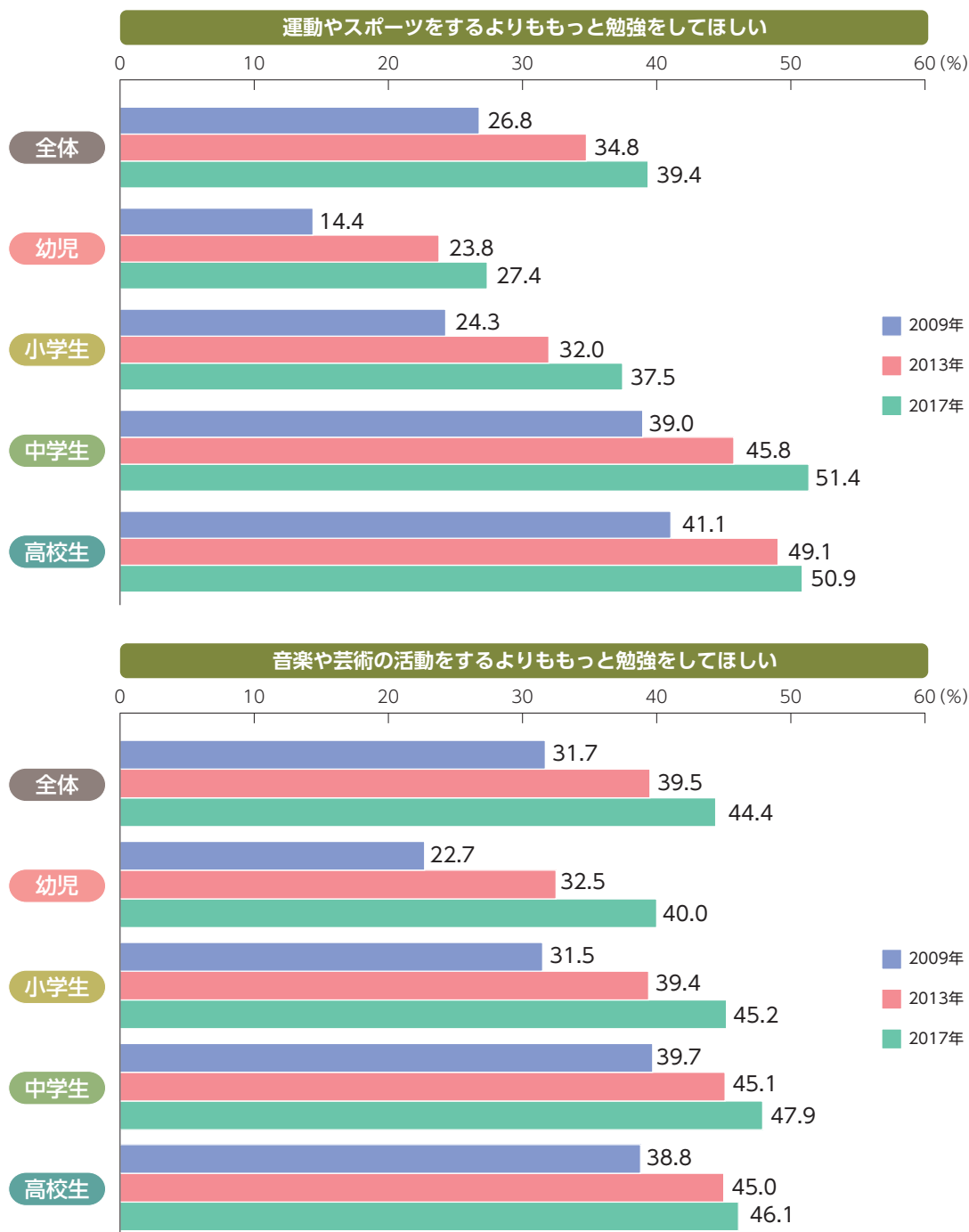
注2 2009年調査では高3生の保護者を対象としていない。2017年の世帯年収(平均)および学校外教育活動費(月額)は、高3生を除外した3歳～高2生を対象に算出した。

注3 2013年のデータについては省略した。

- ◆「運動やスポーツをするよりももっと勉強をしてほしい」は、8年間で12.6ポイント増加。
- ◆「音楽や芸術の活動をするよりもっと勉強をしてほしい」は、8年間で12.7ポイント増加。
- ◆幼児の保護者の変化が大きく、とくに「音楽や芸術」では小学生以上との差が縮まった。

Q お子さまの運動やスポーツ、音楽や芸術(美術)にかかわる活動に関して、あなたはどのように思いますか。

図10-1 スポーツ・芸術活動と学習活動についての考え(学校段階別)



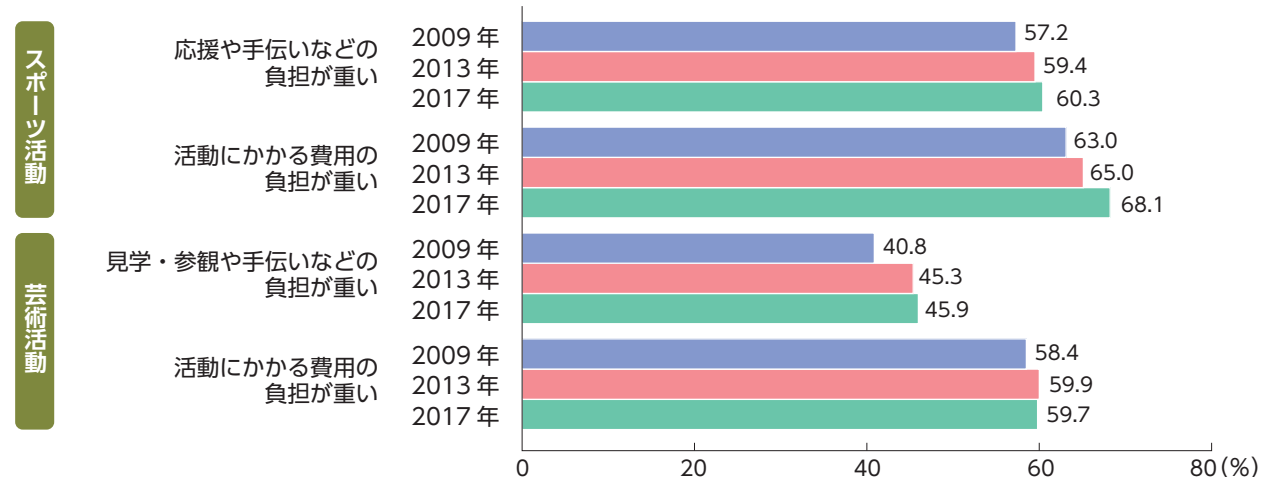
注1 数値は「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計(%)。

注2 数値は、経年比較のため2009年調査に揃え、高3生を除外した3歳~高2生を対象に算出した。

- ◆スポーツ活動の「活動にかかる費用の負担が重い」を肯定する割合が高まり、7割近くになった。
- ◆3人に2人が「教育にお金がかかり過ぎると思う」と回答しており、重い負担感をもっている。
- ◆その一方で、「教育にはできるだけお金をかけるようにしている」という意識は2013年より増加。

Q お子さまの運動やスポーツ、音楽や芸術(美術)にかかわる活動に関して、あなたはどのように思いますか。

図11-1 活動に対する負担(全体)

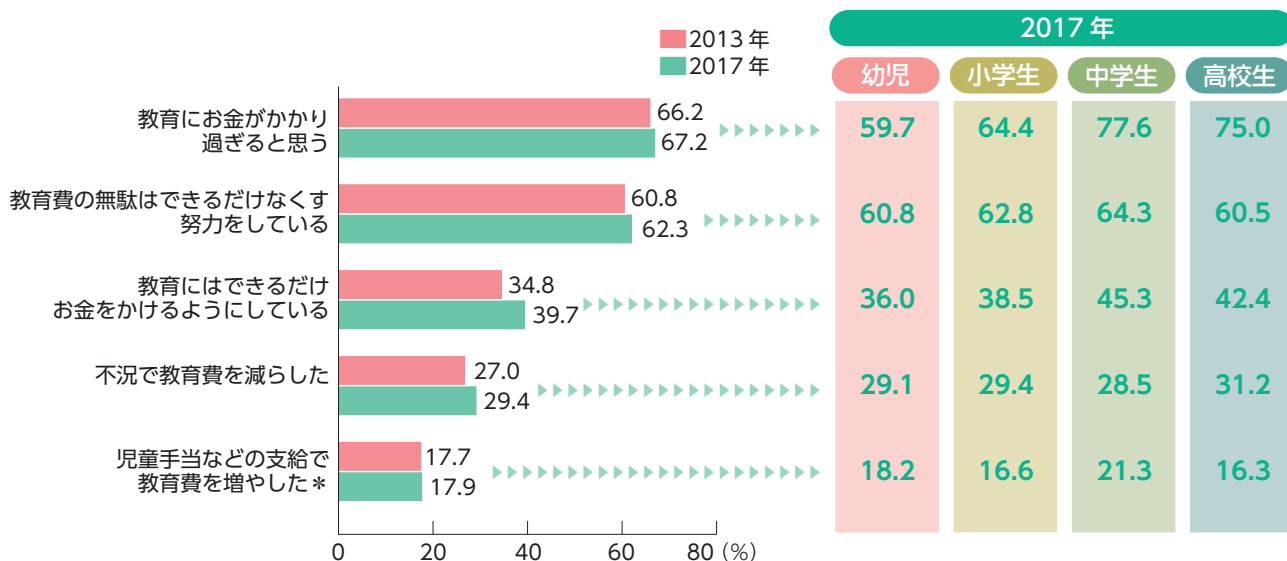


注1 数値は「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計(%)。

注2 数値は、経年比較のため2009年調査に揃え、高3生を除外した3歳~高2生を対象に算出した。

Q 教育費の支出について、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

図11-2 教育費の支出について(全体、学校段階別)



注1 数値は「とてもそう」と「まあそう」の合計(%)。

注2 数値は、経年比較のため2009年調査に揃え、高3生を除外した3歳~高2生を対象に算出した。

注3 * 2013年調査では、「子ども手当などの支給で教育費を増やした」とたずねた。

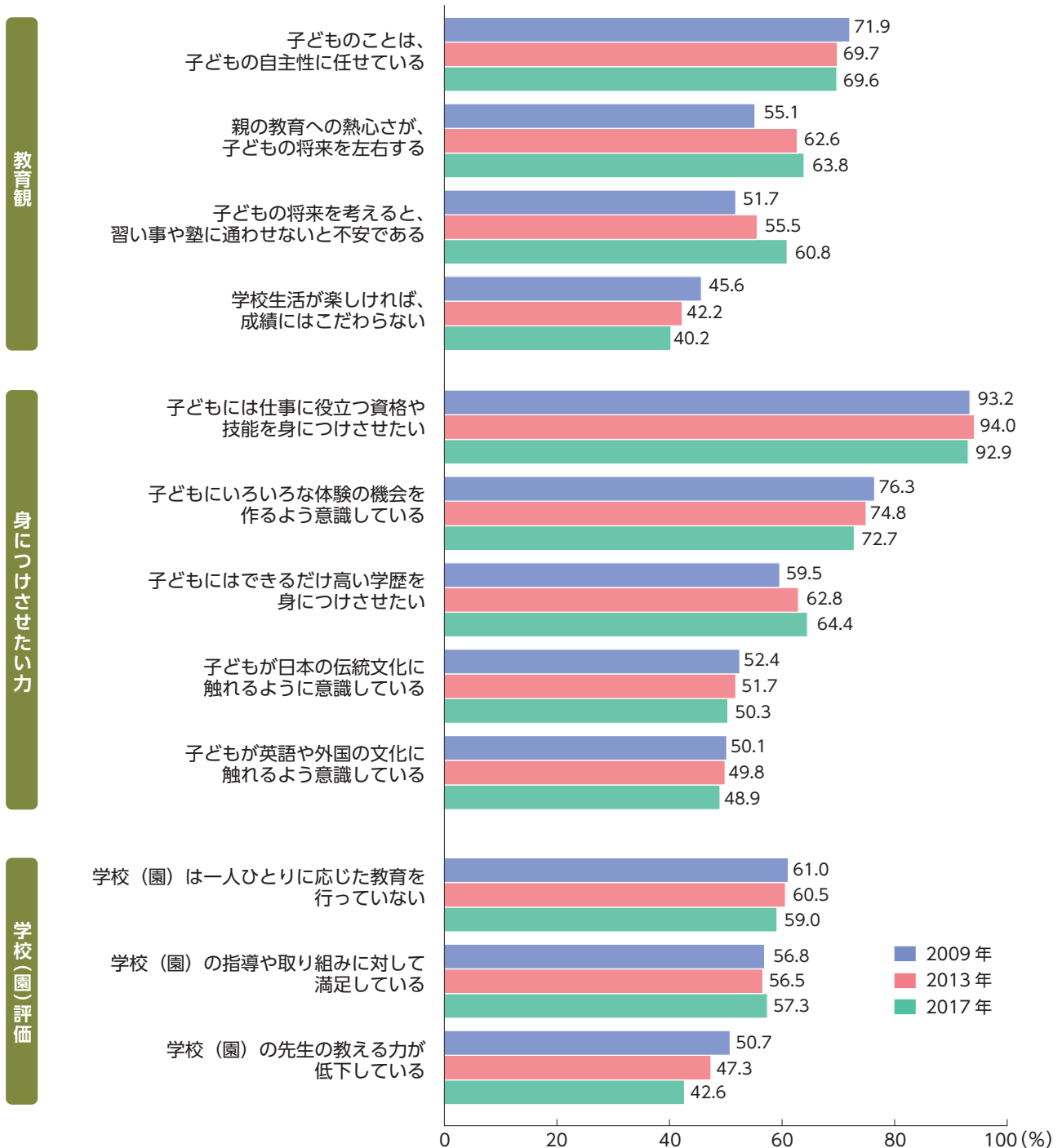
注4 2009年調査ではたずねていない。

- ◆「親の教育への熱心さが、子どもの将来を左右する」は、8年間で8.7ポイント増加。
- ◆「子どもの将来を考えると、習い事や塾に通わせないと不安である」は、8年間で9.1ポイント増加。
- ◆「学校(園)の先生の教える力が低下している」は、8年間で8.1ポイント減少。

Q

お子様の教育について、どのようにお考えですか。

図12-1 教育についての考え(全体)



注1 数値は「とてもそう」と「まあそう」の合計(%)。

注2 数値は、経年比較のため2009年調査に揃え、高3生を除外した3歳~高2生を対象に算出した。

学校外教育活動に関する調査 2017

調査企画・分析メンバー

木村 治生	(ベネッセ教育総合研究所 副所長)
邵 勤風	(ベネッセ教育総合研究所 主任研究員)
朝永 昌孝	(ベネッセ教育総合研究所 研究員)

※所属・肩書は2017年10月時点のものです。

ベネッセ教育総合研究所のWEB サイトのご案内

本調査の調査票・集計表およびベネッセ教育総合研究所で実施している各種調査結果は、以下のサイトでご覧いただけます。

<http://berd.benesse.jp/>

ベネッセ 研究

検索

で検索できます。

「学校外教育活動に関する調査2017」データブック

発行日：2017年10月31日

発行人：谷山 和成

編集人：木村 治生

発行所：(株)ベネッセホールディングス ベネッセ教育総合研究所

企画・制作：〒206-0033 東京都多摩市落合1-34 ベネッセ教育総合研究所

編集協力：(株)ジー・アンド・ピー

7KGH01

©Benesse Educational Research and Development Institute

無断転載を禁じます。